

第31期目録委員会記録 No.12

第12回委員会

日時：2008年7月26日（土）14時00分～16時30分

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：中井委員長，稲浜，木下，平田，古川，横山，渡邊

<事務局> 磯部

[配付資料]

1. 国際目録原則覚書草案（2008年4月版）への投票一覧（5ページ-A4，事務局）
2. RDA第29-32章(2007.12draft) の概要（4ページ-A4，平田委員）
3. RDA第29-32章(2007.12draft) 参考資料（10ページ-A4，平田委員）
4. Getting Ready for RDA [出典：米国図書館協会ウェブサイト]（7ページ-A4，事務局）
5. The Influence of FRBR on RDA [同上]（6ページ-A4，事務局）
6. RDA Product Development Snapshot, by Nannette Naught [同上]（22ページ-A4，事務局）
7. An Introduction to FRAD [同上]（10ページ-A4，事務局）
8. 電子時代の全国書誌のためのガイドライン（草案）について（2ページ-A4，横山委員）
9. 第31期目録委員会記録 No.10（2ページ-A4，事務局）
10. 第31期目録委員会記録 No.11（案）（3ページ-A4，事務局）

[報告事項]

国際目録原則覚書草案（2008年4月版）への投票一覧について

資料1について主として次のような指摘・意見があった。

- ・米国の個人による反対意見が目につくなどの傾向が見られる。ただし各コメントの内容までわかるような文書は今のところない。

[検討事項]

1. RDA草案第29-32章について

平田委員から資料2（資料3は仮訳）に基づき、2007年12月草案の第29-32章について説明があり、意見交換を行った。主な指摘・意見は次のとおり。

- ・関連[のごく一部]は相互参照に相当する。
- ・同一実体の異なる名称（例えば本名と筆名）の間の関連は、規定されているだろうか。（補記：規定はないが例示がある。）
- ・家族の範囲があいまいで、例えば兄弟との相違がはっきりしない。
- ・どの詳細さで関連を表示すべきなのだろうか。
- ・関連表示を扱う付録が未公開であり例示が少ないので、わかりにくい。

2. 米国図書館協会によるRDAに関するプレゼンテーション資料について
資料4-7について意見交換を行った。主な指摘・意見は次のとおり。
 - ・資料4はRDAのテストに言及しているが、詳しくは述べていない。だが「Joint Testing」の内容が広範で、多方面の機関が参加することがわかる。
 - ・資料5に属性のみがエレメントと表示されているが、関連もまたエレメントのはずである。
 - ・オンライン化されたRDAは有料なのか。
3. 電子時代の全国書誌のためのガイドライン（草案）について
横山委員から資料8に基づき説明があり、意見交換を行った。主な指摘・意見は次のとおり。
 - ・2007年に作業部会の名称が変更され目的も変わった。
 - ・電子資料を収録する意味と、全国書誌を電子化する意味の両義がある。
 - ・あまり実用的な内容ではない。
 - ・全国書誌と国立図書館蔵書目録を一体化して作業するのが、考慮すべきポイントか。
 - ・FRBRにおける全国書誌の要件に立脚して、その先へ進むという姿勢は見られないようである。組織が異なる（IFLAの目録分科会と書誌分科会）からか。
4. その他
各自でFRBR化目録について調査し、適切な資料があればメーリング・リストで紹介する。

次回の委員会の予定は次のとおり。

9月は休会。

10月11日（土）

以上